



「はたらき」を化学する。
“Performance” Through Chemistry

第96期

株主のみなさまへ

2019年4月1日～2020年3月31日



TOPICS

新型リチウムイオン電池の 事業化に向けて

— P.05 —

当社は、金属を使用せず、電極に樹脂を用いた次世代型リチウムイオン電池（以下 新型LiB）の開発に注力しています。新型LiBの特長、進捗状況については、TOP MESSAGE (P.02) 及び TOPICS (P.05) をご覧ください。



CONTENTS

TOP MESSAGE	01
セグメント別営業の概況	03
財務データ	04
TOPICS	05
会社概要／株式の概況	裏表紙



TOPICS

化粧品事業における総合的な ソリューション提案を目指して

— P.06 —

当社は、パーソナルケア事業の育成、新しい高付加価値化粧品原料の市場開拓の推進とともに、化粧品ビジネスの円滑な立ち上げに注力しています。化粧品事業の進捗状況については、TOPICS (P.06) をご覧ください。



TOP MESSAGE

— P.01 —

当期の業績、新型リチウムイオン電池の開発、株式会社日本触媒との経営統合についてご報告します。



TOP MESSAGE

よりよい社会の実現に貢献してまいります。



代表取締役社長

安藤 孝夫

株主のみなさまには、平素より格別のご高配をたまわり、厚くお礼申しあげます。2020年3月31日をもって、当社第96期の事業年度を終了いたしましたので、ここにその概況をご報告申しあげます。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

2020年6月

〔社是〕
企業を通じて
よりよい社会を建設しよう

〔社章〕

三洋化成
Sanyo Chemical

当期における業績について

当期におけるわが国経済は、個人消費は緩やかな回復基調にありましたが、中国経済の減速により輸出が低迷するなど足踏み状態にありました。第4四半期以降は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、経済活動が大きく縮小するなど先行き不透明な状況にあります。一方、世界経済は、米中貿易摩擦による実体経済面への影響が続いておりましたが、第4四半期以降は、新型コロナウイルスの世界的な大流行によるサプライチェーンの混乱や、外出規制による需要の蒸発などにより、危機的な状況に陥っております。

化学業界におきましては、原料価格は中東情勢の緊迫化などにより不安定な状況となり、為替相場は米国金融政策の緩和への転換などにより円高傾向にありましたが、第4四半期以降は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、原料価格の急落、為替相場の乱高下など事業環境に大きな影響が生じており、予断を許さない状況にあります。

このような環境下における当期の売上高は、1,555億3百万円(前期比3.8%減)となりました。利益面では、売上高の減少などにより、営業利益は124億3千9百万円(前期比3.7%減)、経常利益は為替差損や持分法投資利益の減少などにより127億4百万円(前期比16.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は76億6千8百万円(前期比43.4%増)となりました。

当社は、連結配当性向30%以上をめどに、安定配当を実施することを配当の基本方針としております。期末配当金につきましては、昨年12月に実施いたしました中間配当金と同じく、1株当たり70円とさせていただきます。これにより、当期の年間配当金は、1株当たり140円となります。

新型リチウムイオン電池の開発について

当社は、慶應義塾大学の堀江英明特任教授やパートナー企業とともに電極に樹脂を用いた次世代型リチウムイオン電池(全樹脂電池、以下 新型LiB)の開発を行っています。

新型LiBは、これまででない異常時信頼性と形状自由度の高さを特長とし、より安全で安定した電力の供給に役立つだけでなく、再生可能エネルギーの普及など環境負荷の低減も期待できます。さらにはIoT、AI、ロボット等次世代の産業基盤のさらなる強化に貢献することが期待できます。当社は、このような新型LiBの事業を促進することで、より大きな社会価値の創造を図り、持続可能でより良い社会の建設に貢献してまいります。

新型LiBの特長や進捗状況等につきましては、本冊子のTOPICSページ(P.05)をご覧ください。

株式会社日本触媒との経営統合について

当社及び株式会社日本触媒は、2019年11月29日に両社それぞれの臨時取締役会において、共同株式移転の方式により両社の親会社となる「Synfomix株式会社」を設立し、経営統合を行うことを決議し、両社間で対等の精神に基づいた最終契約を締結いたしました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な感染拡大や原油及び石油製品相場の急落等を踏まえ、本経営統合の合意の基礎となった両社の業績等ならびに金融、経済、市場その他の事業環境の見通しが不透明となったことから、最終契約で予定していた2020年10月1日の設立は2021年4月1日まで延期するとともに、株式移転比率も見直すこととしております。

今後の進展につきましては、当社HP等にて適時開示してまいります。

統合持株会社の新社名についての詳細、今後のスケジュールにつきましては、本冊子の6ページをご覧ください。

株主のみなさまへ

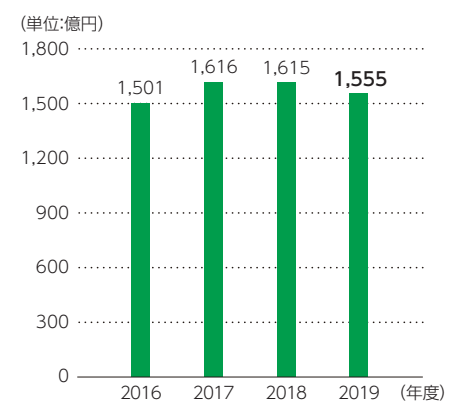
当社は、新型LiBに加え、昨年12月に中国向け化粧品ブランド「Cheriage」を立ち上げた化粧品分野や、難治性の傷を治す人工タンパク質シルクエラスチン等の開発を進めるバイオ・メディカル分野において、今後成長が期待できる新規事業の創出に注力しています。

また、働き方改革を経営重点事項と位置づけ、根本的な意識改革や業務革新・業務効率化に注力しており、より柔軟に勤務できるフレックスタイム制度や時間単位有給休暇制度、在宅勤務制度などを設け、業務遂行における時間意識の変革を促進しています。さらに、女性活躍を推進するべく女性社員の能力向上やモチベーションアップ、女性同士のネットワーク構築を目的とした女性向け公募型研修を実施したり、性的マイノリティであるLGBT対応を進めるべく社内研修を行ったりする等、これまで以上に多様な人材が働きやすい環境づくりを進めています。

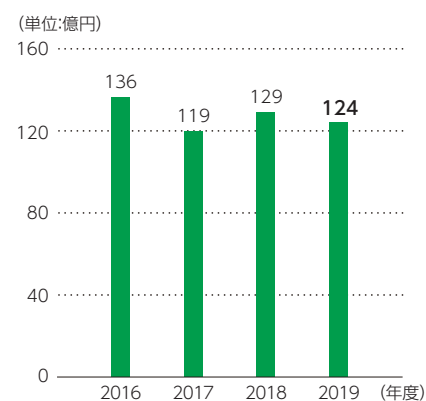
今後は全従業員が一層活躍して高い付加価値を生み出すことで、よりよい社会の実現に貢献してまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

財務ハイライト(連結)

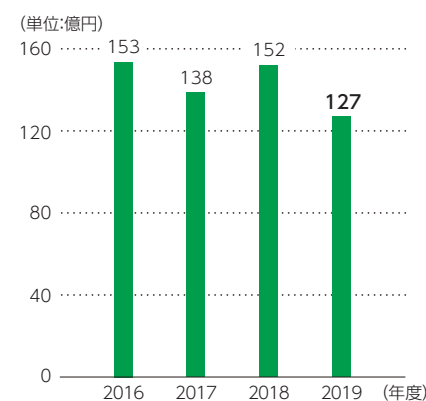
売上高の推移



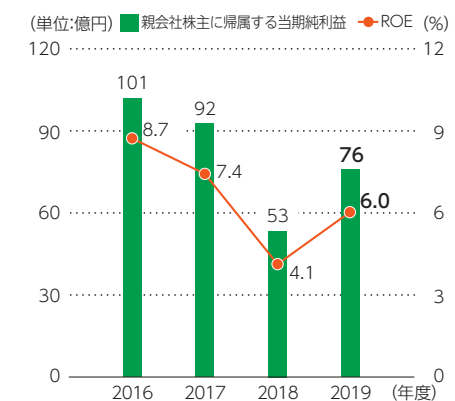
営業利益の推移



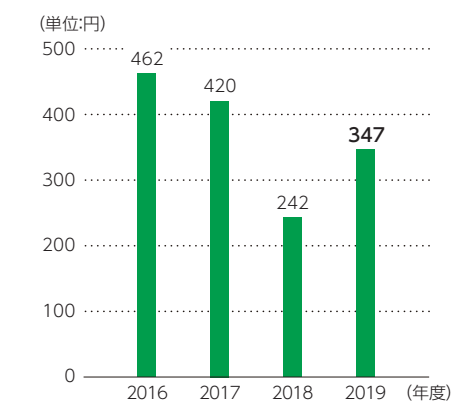
経常利益の推移



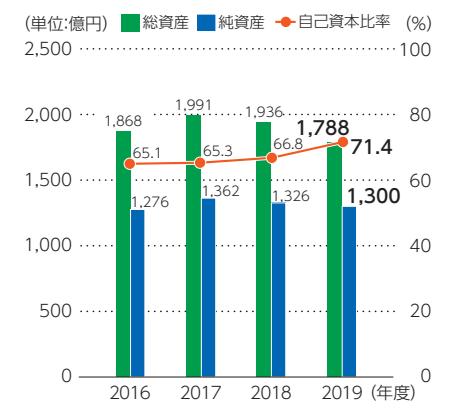
親会社株主に帰属する当期純利益・ROEの推移



※1株当たり当期純利益の推移



総資産・純資産・自己資本比率の推移



※当社は、2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、2016年度の期首に株式併合が行われたものと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

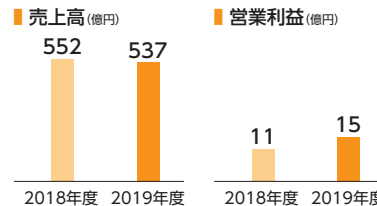
セグメント別営業の概況



生活・健康産業 関連分野

売上高
537 億円

前期比 **2.8%減**



【生活】液体洗濯洗剤用界面活性剤の販売が横ばいとなり、ポリエチレングリコールの販売が国内外ともに低調であったことから、売り上げは低調。

【健康】主力の高吸水性樹脂が、原料価格の下落に伴い製品価格が低下したが、当社連結子会社であるSDPグローバル(マレーシア)SDN.BHD.の本格稼働もあり、売り上げは横ばい。

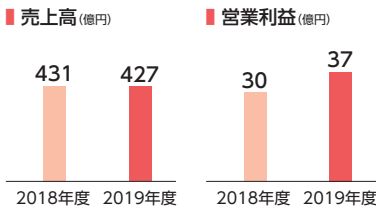
- 主な製品
- 洗剤・洗浄剤用界面活性剤
 - ヘアケア製品用界面活性剤
 - 高吸水性樹脂
 - 医薬品原料



石油・輸送機産業 関連分野

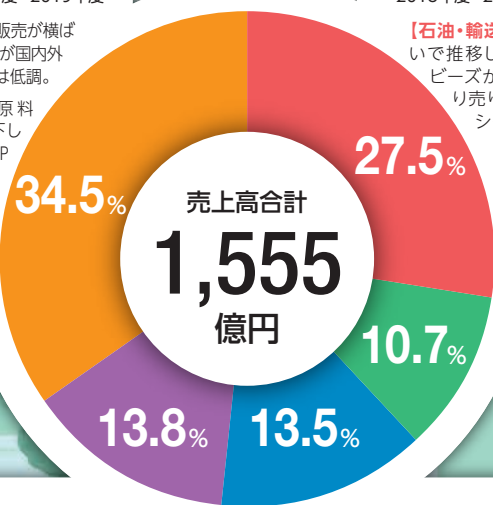
売上高
427 億円

前期比 **0.8%減**



【石油・輸送機】潤滑油添加剤の販売が横ばいで推移し、自動車内装表皮材用ウレタンビーズが高機能品の採用車種の増加により売り上げを伸ばしたものの、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料の販売が減少したため、売り上げは横ばい。

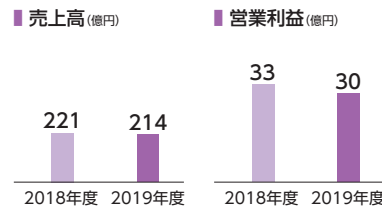
- 主な製品
- 自動車内装表皮材用ウレタンビーズ
 - ポリウレタンフォーム用原料
 - 潤滑油添加剤



プラスチック・繊維産業 関連分野

売上高
214 億円

前期比 **3.2%減**



【プラスチック】塗料コーティング用薬剤・添加剤の販売が好調に推移したが、主力の永久帯電防止剤・樹脂改質剤の販売を伸ばすことができず、売り上げは横ばい。

【繊維】炭素繊維用薬剤が需要増により売り上げを伸ばしたが、合成皮革・弾性繊維用ウレタン樹脂、タイヤコード糸等の製造時に使用される油剤の中国向け輸出が米中輸出関税問題の影響を受け低調に推移したため、売り上げは大幅減。

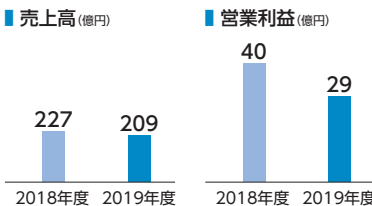
- 主な製品
- 永久帯電防止剤
 - 顔料分散剤
 - 樹脂改質剤
 - 塗料用樹脂
 - 炭素繊維用薬剤



情報・電気電子産業 関連分野

売上高
209 億円

前期比 **7.8%減**



【情報】粉砕トナー用バインダーの販売が横ばいで推移したが、重合トナー用ポリエステルビーズがユーザーの在庫調整により減少し、売り上げは低調。

【電気電子】電子材料用粘着剤の販売が好調に推移したが、アルミ電解コンデンサ用電解液の販売が低調に推移したことにより、売り上げは低調。

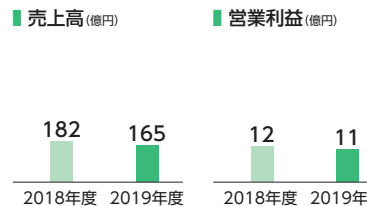
- 主な製品
- 重合トナー中間体
 - トナーバインダー
 - アルミ電解コンデンサ用電解液
 - 電子部品製造工程用薬剤



環境・住設産業 関連分野他

売上高
165 億円

前期比 **9.3%減**



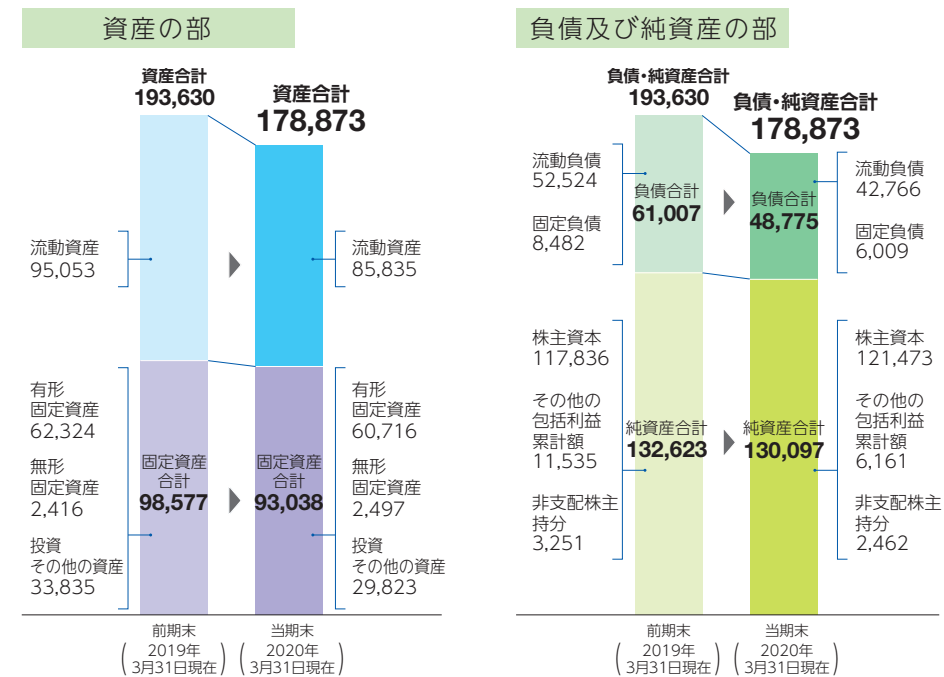
【環境】高分子凝集剤の市況が引き続き低迷し、その原料であるカチオンモノマーも売り上げが伸びず、低調。

【住設】建築シーラント用原料が、海外向け売り上げを伸ばしたものの、国内向けが低調に推移し、家具・断熱材などに用いられるポリウレタンフォーム用原料も売り上げが減少したため、低調。

- 主な製品
- 家具・断熱材用ポリウレタン原料
 - 建築シーラント用原料

財務データ

連結貸借対照表の概要 (百万円)



POINT

連結貸借対照表について

総資産は前期末比147億5千6百万円の減少となった。受取手形及び売掛金62億6千8百万円の減少、投資有価証券61億6千2百万円の減少となった。負債については買掛金48億3百万円の減少、電子記録債務25億2千9百万円の減少となった。

POINT

連結損益計算書について

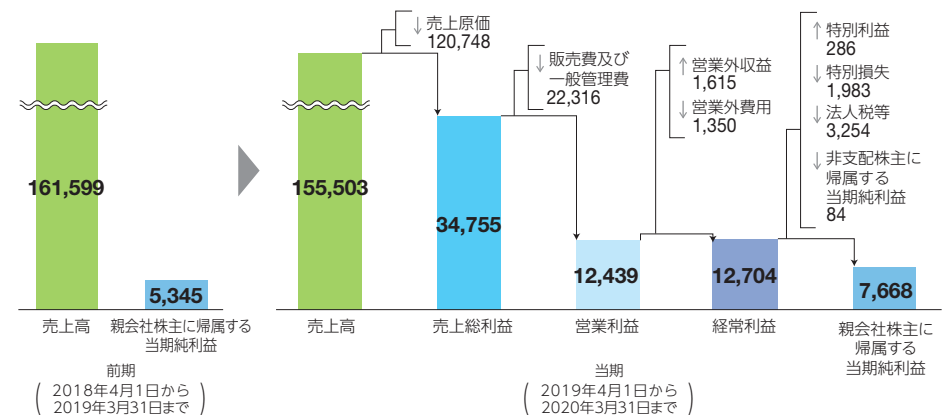
前期比で売上高は60億9千5百万円の減収となり、営業利益は4億8千万円の減益となった。経常利益は為替差損や持分法投資利益の減少などにより、前期比で25億円の減益となった。

POINT

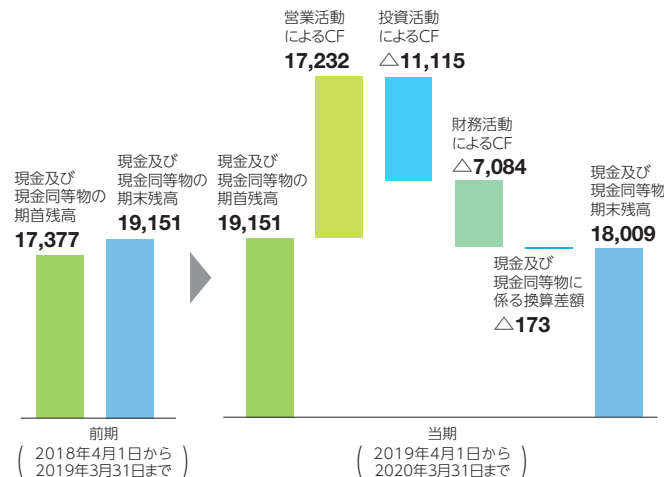
連結キャッシュ・フロー計算書について

営業活動による資金の増加は172億3千2百万円となった。投資活動による資金の減少は固定資産の取得等により111億1千5百万円となった。財務活動による資金の減少は配当金の支払、借入金の返済等により70億8千4百万円となった。

連結損益計算書の概要 (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)



さらに詳しい財務データは
当社ウェブサイトの
「IR 株主・投資家情報」を
ご覧ください

三洋化成 検索



<https://www.sanyo-chemical.co.jp/>

三洋化成公式ツイッター
@sanyochemical



当社のことを知っていただくように、楽しくつぶやいています。

三洋化成YouTube公式チャンネル



https://www.sanyo-chemical.co.jp/ir_info/index.html

新型リチウムイオン電池の事業化に向けて



APB株式会社増資発表会見

新型リチウムイオン電池の開発、特長について

当社は、資本業務提携を行っているAPB株式会社（以下 APB）とともに次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池（All Polymer Battery、以下 新型LiB）」の開発を行っています。APBは、当社と慶應義塾大学の堀江英明特任教授（現APB代表取締役）が共同で開発した新型LiBの製造及び販売を行うスタートアップ企業です。

新型LiBは、金属を使用せず、電池骨格の全てが樹脂材料で構成されています。当社の強みである界面制御技術を活かして全てを樹脂化することで、電極の厚膜化が容易に行え、セルの大型化が可能で形状自由度が高いことを特長としています。また、穴を開け

たり、切断したりしても発火しないため、安全性にも優れています。さらに、独自の製造プロセスにより、従来のリチウムイオン電池よりも工程を短縮することで、製造コスト・リードタイムの削減を実現しています。

まずは、電池容量を大きくしたいというニーズの強いオフィス、発電所などの大型定置電源用途向けでの実用化を目指してまいります。

進捗と今後について

APBは、計7社を引受先とする第三者割当増資により、総額約80億円を調達し、新型LiBの量産検証を開始するため、福井県越前市において用地及び建物を新たに取得し、2021年の操業開始を予定していることを本年3月に発表しました。

今回の増資により、新型LiBの量産やその後の市場展開において豊富な経験を持つ新たなパートナーの支援を受けることが可能となりました。今後APBは、世界初の全樹脂電池の商業化に向け、早期での量産化技術の確立を目指し、加速してまいります。



APB福井工場用建屋

化粧品事業における総合的なソリューション提案を目指して



「Cheriage」販売発表会見

化粧品事業について

当社は、パーソナルケア事業の育成、新しい高付加価値化粧品原料の市場開拓の推進とともに、末端化粧品ビジネスの円滑な立ち上げを目的として、昨年10月にBeauty & Personal Care部（以下 BPC部）を新設しました。当社が注力する女性活躍推進の一例として、BPC部では、化粧品分野に精通した女性リーダーを中心に、メンバーの半数を女性で構成し、女性目線でユーザーニーズを迅速にとらえ、新しい価値を提案できるよう開発を進めています。

化粧品原料開発について

化粧品原料としては、肌の角層と似た層状構造（ α ゲル構造）を形成し、皮膚の水分蒸散を防ぎ、角質のバリア機能を高める界面活性剤「アルファピュール HSG」や、べとつかずさらりとした感触を付与できる水溶性増粘剤「サランジュール」を開発しました。

さらに、サステナブルを念頭に、生分解性素材や天然成分を含む製品を開発するため、社外知見導入チームを結成しスピード感をもって開発を行っています。

末端化粧品ビジネスについて

昨年12月、化粧品ブランド「Cheriage」を立ち上げることを発表しました。「Cheriage」は、当社がスポンサーを務める京都にゆかりのある中国人女子プロゴルファーの石姉妹とのコラボレーションによって生まれました。「もっとかわいく、もっとつよく」をブランドイメージに掲げ、化粧品を使うことで外見のかわいさだけでなく、内面までキラキラ輝き自分らしく活躍していく女性たちを応援します。厳選した美容成分を含む4商品（洗顔フォーム、バリアミスト、ルージュ、アイライナー）をラインアップし、まずは中国市場をターゲットに中国電子商取引最大手の越境ECモールで販売し、追って日本での販売も検討しています。

当社では、これまで香粧品分野において主に原料開発を行ってきましたが、最終製品の化粧品を取り扱うことで、知名度を向上させるとともに、ユーザーニーズをとらえ、化粧品分野における総合的なソリューションが提案できるよう努めてまいります。



Cheriage

経営統合について

- 2019年11月29日、統合持株会社の新社名を決定いたしました。

新 社 名 **Synfomix** [sínfəmix]
（正式名称「Synfomix株式会社」「Synfomix Co., Ltd.」）

由 来 【Syn】共に 【X】掛け合わせる、未知 【Symphony】交響曲 【Synthesis】合成
【Formulation】配合 【Mix】融合

想 い 化学の持つ未知なる可能性を追求し、共に取り組み、様々な可能性を掛け合わせ、社会を豊かに奏でる価値を生み出していく

目指す姿 私たちは、組織を越え、多様な価値観を尊重し、様々な可能性を掛け合わせ、未知の領域へ常に挑戦し続けることで、革新的でユニークな価値を生み出します。また、世の中から信頼される存在であり続けるために、絶えず安全の徹底と環境との調和を図ります。さらには、従業員一人ひとりが働きやすく、働き甲斐を感じられる職場づくりも推し進めていきます。そしてこれらを通じて社会課題を解決し、生活のあらゆる場面を豊かにし、未来のため、持続可能な社会の創造に貢献します。

- 2019年11月29日に開示しましたスケジュールから、下記のとおり延期しております。

効力発生日（統合持株会社の成立日）
統合持株会社の普通株式の上場日

2021年4月1日
（予定）

当社普通株式の
最終売買日

2021年3月29日
（予定）

当社普通株式の
上場廃止日

2021年3月30日
（予定）



「2019年度省エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」の受賞

2020年1月、省エネ大賞授賞式（主催：一般財団法人省エネルギーセンター、後援：経済産業省）が開催され、当社鹿島工場で導入したヒートポンプ式排水濃縮装置の省エネ性、先進性、独創性などが高く評価され、省エネ事例部門「資源エネルギー庁長官賞」を受賞いたしました。受賞は、株式会社サクラ及び一般財団法人日本エレクトロヒートセンターとの共同応募によるものです。当社は今後も環境保全活動を推進してまいります。

ダイバーシティ



当社女性研究員が女子学生との交流会に講師として参加

2020年1月、女性活躍推進サミット「WORK & WOMEN IN INNOVATION SUMMIT」が京都で開催され、その中の分科会の一つである「女子学生のためのフューチャーフォーラム」に当社の女性研究員2名が講師として参加いたしました。女性研究員は、自身の仕事内容や経験談、当社の諸制度について講演した後、女子学生と進路選択や仕事と育児の両立など様々な意見交換を行いました。当社は今後も積極的に女性活躍推進に取り組むとともに化学分野の人材育成も推進してまいります。

会社概要／株式の概況

概況 (2020年3月31日現在)

創立：1949年11月1日
資本金：13,051,179,427円
従業員数：1,346名（連結2,060名）
関係会社：国内10社、海外16社

事業所 (2020年3月31日現在)

本社（京都市東山区）
東京支社（東京都中央区）、大阪支社（大阪市中央区）
営業所：名古屋、中国（広島市）、西日本（福岡市）
研究所：本社、桂（京都市西京区）
工場：名古屋（愛知県東海市）、衣浦（愛知県半田市）、
鹿島（茨城県神栖市）、京都

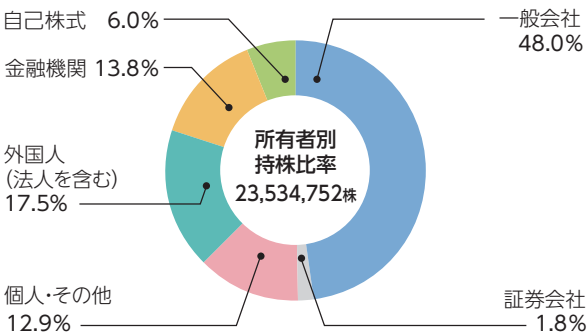
役員 (2020年6月19日現在)

取締役 取締役会議長 (社外)	上野 観	常務執行役員	鶴田 博之
代表取締役社長 兼執行役員社長	安藤 孝夫	執行役員	木村 昌史
代表取締役 兼執行役員副社長	樋口 章憲	執行役員	田中 敬次
取締役 兼専務執行役員	前田 浩平	執行役員	岡田 英治
取締役 兼常務執行役員	鳴瀧 英也	執行役員	北村 充也
取締役 兼常務執行役員	太田 篤志	執行役員	福井 正弘
取締役 兼常務執行役員	下南 裕之	執行役員	藤井 雄一
取締役 兼常務執行役員	山本 眞也	執行役員	須崎 裕之
取締役 (社外)	相京 重信	執行役員	原田 正大
取締役 (社外)	白井 文	執行役員	土屋 稔
監査役 (社外・常勤)	大志万 俊夫	執行役員	奥 喜之
監査役 (常勤)	堀家 尚文	(注) 取締役 上野 観氏、相京 重信氏、白井 文氏、監査役 大志万 俊夫氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。	
監査役 (社外)	加留部 淳		

株式総数及び株主数 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
51,591,200株	23,534,752株	6,973名

株主構成 (2020年3月31日現在)



大株主 (2020年3月31日現在)

株主名	株式数(千株)	持株比率 (%)
豊田通商株式会社	4,286	19.4
東レ株式会社	3,826	17.3
株式会社日本触媒	1,105	5.0
JXTGホールディングス株式会社	1,061	4.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	918	4.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	848	3.8
GOVERNMENT OF NORWAY	584	2.6
三洋化成従業員持株会	486	2.2
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000	469	2.1
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSP RE CLIENT ASSETS-SETT ACCT	373	1.7

(注) 1. 上記のほかに、自己株式1,417千株があります。
2. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

期末配当基準日 3月31日

中間配当基準日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(電話照会先 郵便物送付先)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

公告掲載 当社ホームページ
<https://www.sanyo-chemical.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
(コード番号4471)

住所変更、配当金の受取方法の指定、
単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様が口座を開設されている証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三洋化成工業株式会社

本社
〒605-0995 京都市東山区一橋野本町11-1
TEL: 075-541-0255 (総務ダイヤルイン)
ホームページアドレス
<https://www.sanyo-chemical.co.jp/>

